

平成24年度第4回地域協議会は2月14日（木）午後3時から二ツ井町庁舎大会議室で行われた。

恋文のまちづくり事業推進計画、旧天神小学校利活用事業計画、空き校舎等の扱い、高齢者ふれあい交流施設の整備、「能代市農業施策等に関する要望」（農業者の窓口一本化）に対する意見聴取について協議した。

1 案 件

（1）恋文のまちづくり事業推進計画について

きみまち阪にちなんで全国コンテストが開催された「恋文」をコンセプトに、市と二ツ井町商工会、観光協会等が一体となって、恋文商店街の推進、きみまち阪活性化の推進、七座山を巡るロマンチックロードの創造を柱とした「恋文のまちづくり」に取り組むこととしている。

恋文商店街推進事業では、ポケットパーク、恋文モニュメントの整備、恋文商品・グルメブランド開発などを考えている。きみまち阪活性化事業では、売店や軽食などを提供する休憩所「きみ恋カフェ」が、4月の桜の時期にオープン予定としており、また、恋文展示館として県休憩所の改修や記念撮影の絶好スポットに記念撮影碑の設置等を考えている。ロマンチックロード創造事業では、縁結びの神社、银杏山神社や七座神社、七座山周辺を巡るコースの整備を計画している。

また、二ツ井町観光協会へ譲渡し学習、体験交流施設として利活用する旧天神小学校とも連携を図ることとしている。

【主な 質疑（Q）と回答（A）】

Q) 恋文コンテストは10年目で終了したが、もう一度町興しをやるのであれば、コンテストを再開した方がいいと思うが、今後どういう考えで進めていくのか。

A) 現段階では、10年間の恋文作品を活かして恋文のまちづくりを進めていきたいと考えている。

H25. 3. 25発行



※案件5件について、熱心な審議が行われた第4回地域協議会（委員12名が出席）

（2）旧天神小学校利活用事業計画について

二ツ井町観光協会へ譲渡を予定している旧天神小学校については、カヌーや木工品づくりなどの学習及び体験交流施設として、今年秋のオープンを目指すこととしており、市としても、支援していきたいと考えている。

（3）空き校舎等の扱いについて

学校統廃合により、二ツ井地域では旧小学校の廃校舎が7つとなっている。体育館については各地区の地域行事や公民館活動等で活用されているが、空き教室については地元利活用が困難とされ、一般公募もしたがほとんど応募がない状況である。建物については老朽化が著しく一部倒壊したところもある。文化財収蔵庫として活用中の旧富根小学校、二ツ井町観光協会に譲渡予定の旧天神小学校を除いた5つについて、市としては、安全管理の面から順次解体していきたいと考えている。体育館については各地区で活用されているため除く。順次解体するよう年次計画を組むが、利活用したいとの話があれば一時的に延期し、その話を検討する。プール及び付随する建物についても校舎解体と同時に解体する。解体後の更地については、簡単に整地して地元で体育館を使用するときの駐車場に利用してもらう。グラウンドについては、地区運動会会場として使用されており、現在の形態のまま利用してもらう。ただし市に対して土地の譲渡、貸付等の申し出があれば、

自治会等とも協議の上、譲渡等検討することとする。

地元自治会等との検討会についての状況であるが、平成21年度から地元説明会を行った。仁鮎地区・切石地区については地元利活用検討委員会を立ち上げ各17回、10回の検討会を開催したが、最終的に事業構想が大きければ大きいほど実施主体をどうするか難しいこととなり解体も「やむなし」となった。旧二ツ井小学校については、かかわる町内会が難しいが1区～13区町内会長に対する説明会を教育部主催で開催した。結果は解体「やむなし」となった。体育館を土床体育館に改修をとの整備要望があったが調査した結果、新しく建てるくらいかかることが分かったため、最終的に体育館を含む校舎解体が了承された。

解体後の校舎跡地に簡易な土床体育館整備の要望があり、今後調査・検討することとした。

今後、解体スケジュールを組み、地元の説明していききたい。

【主な 質疑 (Q) と回答 (A)】

Q) 木造校舎については安全面から解体やむなしと思う。解体の年次計画を聞きたい。

また、例えば各廃校舎の使えそうな柱数本ずつでも使用し、きみまち阪などに建物を建設したほうが地元も喜ぶのではないか。そのような廃材を使用する考えはあるか。

A) 1校あたりの解体費は小さいところでも1千万円を超えるのではないかと。緊急性等を考慮しながら実施するが、廃校舎の数が多いので、1年～2年では難しい。少なくとも3年～4年はかかるのではないかと。

材料等の活用については検討したい。

Q) 各校の記念碑というかモニュメントについては、残す予定か、場所についてはどうか。

A) 各校の状況については確認をしていないが、記念碑的なものはできるだけ残す方向で考えたい。現在の場所にそのまま残すか、敷地内の別の場所に移した方がいいかなど今後、検討したい。



(4) 高齢者ふれあい交流施設の整備について

二ツ井地域は能代市の中でも特に高齢化が進んでおり、現在高齢化率が40%を超えている。高齢化は今後も続くものと見込まれ、増え続ける医療費や要介護者の増加などが懸念されており、いきいきと健康で暮らせる環境整備が必要となっている。現在二ツ井地域における温泉施設は、二ツ井総合福祉センター内に小さな浴室が1つあるだけとなっており、利用状況は年間1万2千人前後である。入浴による健康増進や、語らいや交流による生きがいくりの拠点として温泉活用施設を整備する。

目指す具体的な方向として、①温泉入浴と休養による健康の維持、増進 ②介護予防教室等の実施による認知症や寝たきり等の防止 ③集いや語らいの場の提供による家への閉じこもりや孤立の解消 ④一般市民にも開放することによる多世代間の交流促進 ⑤いきがいくりの推進(趣味の作品展示等や施設管理への参加、薪ボイラーへの薪の提供など) ⑥隣接する二ツ井総合福祉センターと連携することによる福祉施策の相乗効果 ⑦二ツ井中心部のにぎわい創出や商店街への波及効果

建設場所は現在の高丘子ども園のある場所で、建物の規模は木造平屋建450㎡程度、浴室、ホール、多目的スペースなどを備える。事業スケジュールであるが、25年度は地質調査等を行い、26年度に子ども園解体、施設の建設等を行い、27年度中には施設のオープンとなる。

事業費は2億3千万円程度で過疎債を予定しており、一般財源は1千3百万円ほどと見込んでいる。

また、二ツ井総合福祉センターと高丘子ども園は敷地の高低差が1.3mほどあるため、将来の利便性を考え盛土して同じ高さにしたいと考えている。

【主な 質疑 (Q) と回答 (A)】

Q) 薪ボイラーは館内の暖房に回すのか。薪は一般からも募るとしているが間に合うのか。

A) 冷泉なので風呂を沸かすための熱源として考えている。暖房については設計の段階で検討されるが、灯油ボイラーとの併用となると考えている。

昨年、梅内地区での宝の森林事業において、2ヵ月ほどの間に山から約60tの薪が出た。机上計算では、60tあれば当施設のほぼ1年分である。地元材だけで不足する場合は、チップ用材などで賄うことを考えている。

Q) ①車のアクセスはどうなるのか。

②二ツ井児童館はどうなるのか。

A) ①車でのアクセスは、「二ツ井総合福祉センター」側と児童館側の両方からを考えている。徒歩については歩行者専用道路からも入れるようにする。

②児童館は現状のままで、車が通ることになるため交通安全上配慮が必要となる。遊具等は、現状のまま使用することになる。

【(5)「能代市農業施策等に関する要望」

(農業者の窓口一本化) に対する

意見聴取について

農業委員会は昨年12月、市長へ対して不効率な事務局の分室体制を解消し、本庁にある農業振興課と同居もしくは隣接して農家が農業関係の事業と農地の相談を一カ所で行うことができるよう要望書を提出した。

市町合併後、農業委員会事務局は、二ツ井町庁舎の本室3人、能代分室2人の分室体制となっている。

主たる業務については、農地流動化の許認可申請の受付で、平成23年度の件数は、能代分室896件(74%)に対し、二ツ井本室312件(26%)であり業務量が実態に合わない体制となっ

ている。

また、耕作放棄地対策や利用集積、担い手確保など農業委員会事務局の業務を進めていく上で農業振興課と連携した取り組みが不可欠となっているため、分室体制の解消等について、委員のみなさんの意見を伺いたい。

【主な 質疑 (Q) と回答 (A)】

Q) 現在は、農業に限らず、いろいろな証明など能代でも二ツ井でも手続きが出来るが、今後どのようになるのか。

A) 大仙市や仙北市などでは各支所に窓口を設け、本庁に農業委員会事務局を置いている。当市でも地域局の環境産業課に農業委員会事務局の窓口を設けることにより、利用者のみなさまに支障がないよう対応出来ると考えている。

<委員の皆さんの意見>

二ツ井町庁舎の空洞化に対する懸念から「現行のままでよい」との意見もあったが、「農家の窓口が二ツ井町庁舎に確保され、利便性が確保されるのであれば」との条件付きで一本化に賛同する意見が多数を占めた。



編集、発行

〒018-3192 能代市二ツ井町字上台 1-1

能代市二ツ井地域局総務企画課 Tel 73-2112